

令和7年1月31日

太田市議会議長 高田 靖 様

創政クラブ 代表 大川 陽一 ㊞

## 会派行政視察報告書

### 長野県長野市行政視察報告

(令和6年7月1日)

#### 長野市概要

(令和6年12月31日現在)

- ・面積 834.8 km<sup>2</sup> ・人口 360,540 人 ・世帯 165,081 人
- ・市制施行 1897 年 4 月 1 日
- ・議員定数 36 名
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額）1,020,000 円
- ・一般会計予算 令和6年 1650 億 3,000 万円

#### 視察事項

「全ての市民が健やかで心豊かに生活できるまち“ながの”の実現へ」の取り組みについて

(目的)

市民の健康づくりへの取り組みは全国各地で見られるが、中でも長野市が展開する「全

ての市民が健やかで心豊かに生活できるまち“ながの”の実現」を目指し、市民の健康増

進や地域福祉、防災、協働など多岐にわたる施策に注目した。長野市でのおもな取り組

みとその効果について学び、本市の市民生活向上に役立てたい。

(所感)

令和6年度から市民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目的とした施策「ながの健やかプラン21（第二次）」が推進されている。生活習慣病の予防と重症化防止、生活習慣や保健行動の改善、健康づくりを支える社会環境の整備などにより、市民が心身ともに健康で豊かな生活を送ることを支援するものだ。具体的な数値は公表されていないものの、健康診断の受診率向上や健康教育の実施回数増加など、市民の健康づくりに関する取り組みが強化されたことによる効

果を実感している市民は多い模様。また、市民や関係機関との連携を深め、メンタルヘルス支援体制の充実をはかり、中山間地域支援と住民自治の強化を掲げて中山間地域の生活の質を確保。さらに協働推進のための基本方針として、市民と行政が対等な立場で協力し、地域課題の解決を図る「協働」の推進を基本方針として掲げてる。これらの取り組みにより、健康寿命の延伸と健康格差の縮小：生活習慣病の予防や健康づくりの推進により、市民の健康状態の向上が期待される。一方、地域の自立と持続可能性の向上についても取り組まれ、中山間地域への支援や住民自治の強化により地域の持続可能な発展が促されている。さらに、市民参加によるまちづくりの推進策として、協働の基本方針により市民が主体的に地域課題の解決に関与することが促進されているという。これらの取り組みは、長野市が目指す「健やかで心豊かに生活できるまち“ながの”」の実現に向けた具体的な施策であり、本市の行政視察においてもおおいに参考となる事例であった。



## 福井県福井市行政視察報告

(令和 6 年 7 月 2 日)

**福井市概要** (令和 6 年 12 月 31 日現在)

- ・面積 61.55 km<sup>2</sup> ・人口 255,949 人 ・世帯 109,010 人
- ・市制施行 1889 年 4 月 1 日
- ・議員定数 32 名
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額）1,800,000 円
- ・一般会計予算 令和 6 年 1293 億 5000 万円

**視察事項**

「『ハピリン』を中心とした福井駅前再開発」の取り組みについて

(目的)

福井市の JR 福井駅西口に位置する複合施設「ハピリン」は、中心市街地の再開発、そして北陸新幹線開業に伴う玄関口整備を目的として整備されたもの。全国的に行政視察の対象としても高い注目を集めており、その概要や効果について実際の施設を見学しながら本市における駅前再開発の参考とする。

(所感)

「ハピリン」の事業名称は「福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業」で、平成 28 年に開業。施行面積は約 0.7 ヘクタール、延床面積は約 35,000 m<sup>2</sup>となる。施行者は福井駅西口中央地区市街地再開発組合。低層階の商業施設は約 20 店舗あり、上層階にはマンションが配置（88 戸）。子どもの一時預かり施設、ボランティアセンター、多目的ホール（能楽堂併設）など多種多彩な施設を備えている。福井市の歴史を振り返ると、中心市街地は戦災・震災復興後の土地区画整理事業により形成されるも、建物の老朽化や商業機能の衰退が進行。平成 14 年頃には大型商業施設の閉店が相次いだ。そこで県、市、地元権利者、経済界による委員会が設置され、再開発に向けた活動が本格化。計画当初はホテルを含めた大規模な再開発が検討されたが、社会情勢の変化や経済状況の悪化により規模を縮小。屋根付き広場の整備など現実的な計画へと転換された。

「ハピリン（Happiring）」の名称は公募によって選ばれたもので、「福井」の「福（ふく）」から「Happy（ハッピー）」、「井（い）」から「Ring（リング）」を組み合わせた造語となる。この名称には、施設を中心に「幸せの輪」が広がっていくことを願う思いが込められ、地域のにぎわい創出と交流の拠点としての役割を果たしている。ハピリン内でのイベント開催も効果的で、中心市街地の賑わい創出に寄与。官民連携による都市機能の集約や、地域資源を活用したまちづくりの成功事例として、参考としたい。



## 滋賀県彦根市行政視察報告

(令和6年7月3日)

### 彦根市概要

(令和6年5月1日現在)

- ・面積 196.87 km<sup>2</sup> ・人口 111,041 ・世帯 51,195 人
- ・市制施行 1937 年 2 月 11 日
- ・議員定数 24 名
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額）260,000 円
- ・一般会計予算 令和6年 464 億 3400 万円

### 視察事項

「マスコットキャラクターについて」

(目的)

自治体のマスコットキャラクターは、地域の PR やイメージアップ、地域の活性化や交流促進など、さまざまな目的で活用されている。本市にもマスコットキャラクター「おおたん」がいます。そこで、マスコットキャラクターが全国的にも知られている彦根市のマスコットキャラクターの利活用を参考にするため

(所感)

彦根市のマスコットキャラクターである「ひこにゃん」の誕生は、平成19年に開催した国宝・彦根城築城400年祭のキャラクターとして誕生。「ひこにゃん」はこの祭りのキャラクターとして、デザインコンペを行い、10 社より提出されたデザイン案の中から選定された。その後、愛称を一般公募し（応募総数1,167点）、一次審査、二次審査を経て平成18年4月13日に決定されている。その1ヵ月後の5月25日には着ぐるみもお披露目された。「ひこにゃん」効果として、400年祭では目標入山者数を550,000人としていたが、実績数では、764,484人と目標よりも多くの入山者数を記録。また、彦根城観覧料収入では、約6億1,426万円となった。400年祭全体の観光消費額（直接効果）では、174億円となり、その内、「ひこにゃん」グッズの購入額は、17億円にもなったとされており、経済波及効果の総額では、338億円とそれぞれで推計。その後も、「ひこにゃん」人気から、彦根市内では各町内で仲間のキャラクター（着ぐるみ）を独自で制作して、彦根の町を盛り上げている。「ひこにゃん」には、ファンクラブもあり、平成22年10月に発足して以来、会員数1,106人（令和5年9月時点）にもなっ

ているとのこと。あらためて、人気の理由も聞いてみると「ひこにゃん」自体の可愛さ・愛嬌のあるパフォーマンスがイラストより可愛いと評判になっていることや、舞台（彦根城）があるため365日いつでも会えることが強みとしているという。

また、ファンへの情報提供や情報拡散もFacebook、Instagram、YouTube、Xなど活用して随時、情報発信を行い、ファンを飽きさせない努力もしているとのことだった。本市でも、彦根市でのマスコットキャラクターの利活用を参考に、地域のPRやイメージアップ、そして、地域の活性化につなげていきたい。

